

「昭和100年」富士・沼津・三島3市共同講演会

「高度経済成長と人びとの暮らし」

—石油化学コンビナート進出阻止運動とその背景—

高度経済成長（1955-1973年）は、戦前にはない「豊かさ」を人びとにもたらしました。その一方で、深刻な公害が各地で発生しました。本講演では、主に静岡県東部を対象としてこの時期の経済・社会の変化を検討します。その上で、1963-1964年におきた石油化学コンビナート進出阻止運動に注目し、当時を生きた人びとにとっての工業開発の意味を探ります。



田子の浦港のヘドロ処理（富士市、昭和47年）



沼津のアーケード街入口（沼津市、昭和30年代）



駿河湾を返せ公害追放県民大集会（沼津市）

2025年
10月25日 土

時間 午後2時～4時（開場午後1時半）
場所 沼津市立図書館 4階視聴覚ホール
（〒410-8533 沼津市三枚橋町9-1）

講師 沼尻 晃伸氏
定員 150名（要事前申込、先着順）
参加費 無料
申込 9月17日（水）より受付開始
右QRコードまたは
電話055-971-8228（三島市郷土資料館）

会場には十分な駐車場がございません。公共交通機関での来場にご協力ください。



主催：富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会

ぬまじり あきのぶ
講師：沼尻 晃伸氏



立教大学文学部教授、博士（経済学）
専門は日本近現代史、社会経済史。石油化学コンビナート進出阻止運動をはじめ、戦前・戦時期から高度経済成長期にかけての静岡県に関する研究を進める。主な著書に『工場立地と都市計画』（東京大学出版会、2002年）、『村からみた市街地形成』（日本経済評論社、2015年）、『〈一人前〉と戦後社会—対等を求めて』（禹宗杭と共著、岩波新書、2024年）。